

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 4 区分

【発行日】平成22年6月3日 (2010.6.3)

【公開番号】特開2008-263758(P2008-263758A)

【公開日】平成20年10月30日 (2008.10.30)

【年通号数】公開・登録公報2008-043

【出願番号】特願2007-106028(P2007-106028)

【国際特許分類】

H 0 2 J 7/00 (2006.01)

H 0 2 J 9/00 (2006.01)

H 0 1 M 10/44 (2006.01)

【F I】

H 0 2 J 7/00 3 0 2 A

H 0 2 J 9/00 Q

H 0 1 M 10/44 P

【手続補正書】

【提出日】平成22年4月13日 (2010.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

不揮発性メモリと二次電池とを有するバッテリーパックを充電する充電装置であって、
所定のデータを前記不揮発性メモリに書き込むための制御手段と、
A C 電源から前記充電装置への電力供給の停止を検出する検出手段と、
前記バッテリーパックからの電力が前記制御手段に供給されるようにする切替手段とを
有し、

前記充電装置が前記バッテリーパックを前記 A C 電源から供給された電力を用いて充電
している場合であり、かつ、前記所定のデータの前記不揮発性メモリへの書き込みが終了
する前に前記 A C 電源から前記充電装置への電力供給の停止が検出された場合、前記切替
手段は、前記バッテリーパックからの電力が前記制御手段に供給されるようにし、前記所
定のデータの前記不揮発性メモリへの書き込みが終了した後に前記バッテリーパックから
の電力が前記制御手段に供給されないようにすることを特徴とする充電装置。

【請求項 2】

前記所定のデータは、前記バッテリーパックの充電状態に関するデータを含む充電状態
データであることを特徴とする請求項 1 に記載の充電装置。

【請求項 3】

前記充電状態データは、前記二次電池の残容量に関するデータを含むことを特徴とする
請求項 2 に記載の充電装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】充電装置

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００１】

本発明は、不揮発性メモリと二次電池とを有するバッテリーパックを充電する充電装置に関する。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

そこで、本発明は、バッテリーパックを充電している場合であり、かつ、当該バッテリーパック内の不揮発性メモリにデータの書き込みを行っている場合に、電源からの電力供給がなくなったとしても、当該データの書き込みを行うことができる充電装置を提供することを目的とする。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

本発明に係る充電装置は、不揮発性メモリと二次電池とを有するバッテリーパックを充電する充電装置であって、所定のデータを前記不揮発性メモリに書き込むための制御手段と、ＡＣ電源から前記充電装置への電力供給の停止を検出する検出手段と、前記バッテリーパックからの電力が前記制御手段に供給されるようにする切替手段とを有し、前記充電装置が前記バッテリーパックを前記ＡＣ電源から供給された電力を用いて充電している場合であり、かつ、前記所定のデータの前記不揮発性メモリへの書き込みが終了する前に前記ＡＣ電源から前記充電装置への電力供給の停止が検出された場合、前記切替手段は、前記バッテリーパックからの電力が前記制御手段に供給されるようにし、前記所定のデータの前記不揮発性メモリへの書き込みが終了した後に前記バッテリーパックからの電力が前記制御手段に供給されないようにすることを特徴とする。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

本発明によれば、バッテリーパックを充電している場合であり、かつ、当該バッテリーパック内の不揮発性メモリにデータの書き込みを行っている場合に、電源からの電力供給がなくなったとしても、当該データの書き込みを行うことができる。